

大手町1丁目2番地ものがたり
(三井物産、三井生命ビル)

華麗なる変遷

三井グループ「三友新聞」連載
平成8年～9年

山岸弘明

大手町一丁目二番地ものがたり ①

華麗なる変遷

山岸 弘明

大手は城の表方。表面の門を大手門といい、江戸時代はとくに江戸城の正門をさした。東京都千代田区大手町一丁目二番地。東京駅からほど近い、この地はまさに旧江戸城の大手門にあたり、かつて酒井姫路藩、徳川一ツ橋卿、酒井庄内藩、細川小倉藩などの大名屋敷がイラカを接した。

つづつ三井物産、三井生命ビル地四〇〇年の足跡を振り返ってみよう。

いま、超高層ビルの連なる大手町一丁目。なかでもひときわ輝く栄光の変遷を

天正十八年（一五九〇）徳川家康が江戸城に入城。当時の大手町周辺は寺地で、慶長ころまでに取り払われて家臣の屋敷や町家になった。

で、選挙民は現職支持を選好したが、最近になって、米国の経済指標の一部に悪化の兆しが現れはじめた。まず、今年

三井物産ビル地の江戸はじめに酒井忠世邸があった。酒井は一〇の大名家を数えるが、中で一きわ輝かしい功績を残したのが雅楽助宗家の姫路酒井家であった。天正十八年徳川家康の江戸入城にしたがって江戸

城の表玄関地を拝領、初代が重忠で、次の忠世のとき老中筆頭を経て大老にすんだ。

米国経済はその後順調に成長を続け、一九九六年十一月現在、六八カ月の拡大を記録している。株価も企業の合理化による利益向上の成果を受けて、ダウ工業株三〇種平均で去る十月中旬には六、〇〇〇ドルを上回った。

三・四半期のGDP成長率は、第二・四半期の四・七%に対して、二・二%と大幅に減速した。また、企業業績も伸びが鈍化してきた。こうした中、株価も下落するおそれがある。米国の景気は、来年以降、悪くなると行く可能性が出てきた。その直前に国民の好況認識を背景に再選されたクリントン大統領は、誠に運が強いと言わなければならぬ。

老中は現在の閣僚で、筆頭老中は総理大臣、大老は臨時大統領といったところだろうか。常置された職制でなく江戸時代三〇〇年間の就任者はわずか一〇人にすぎない。大老が職務で決定したことから将軍とい

えども容易に変更できない権威をもっていた。一代飛んだ忠清も大老にすんだ。四代將軍家綱の信任を独占し、その専権は人々を下馬將軍とおそれさせた。下馬の名は江戸城大手門下馬札に由来し、権勢を將軍とならび称された。しかし家綱の後継問題に失敗、綱吉の五代將軍就任で失脚した。

三井物産貿易経済研究所特別顧問・商学博士

新堀 聡

天和元年（一六八一）首席老中から大老にすむ。綱吉初期の幕政を補佐し、天和の治とたたえられた善政を敷いたが、貞享元年（一六八七）私怨のため江戸城内で刺殺された。堀田家が大手町の地にあったのは天和元年からの七年間。事件を契機に綱吉の政治理念もろすれ頹廢政治への道を歩むことになる。

貞享元年から元禄年間まではさんだ宝永五年（一七〇八）までの間、会津若松二八万石の松平正容邸になっ

このような状況の中



歴史を物語る地に建つ三井物産ビル

三井物産ビル、三井生命ビル地周辺の変遷

天正18年	～元和3-7	酒井河内守重忠	前橋3万石
元和3-7	～寛永9-5○	雅楽頭忠世	// 12万石
寛永9ころ	～// 13-11○	阿波守忠行	// 15万石
// 14-1	～延宝9-1◎	雅楽頭忠清	// 15万石
延宝9-1	～貞享元-8◎	堀田備中守正俊	古河9万石
貞享元-10	～宝永5-10	松平肥後守正容	会津23万石
宝永5-10	～享保5-4	酒井雅楽頭親愛	前橋15万石
享保5-4	～// 16-9	// 親本	//
// 16-10	～安永元-7○	忠恭	姫路15万石
安永元-8	～寛政2-7	忠以	//
寛政2-9	～文化11-9	忠道	//
文化11-9	～天保6-4	忠実	//
天保6-4	～弘化元-10	忠学	//
弘化元-12	～嘉永6-8	忠宝	//
嘉永6-10	～万延元-10	忠顕	//
万延元-12	～慶応3-2◎	忠積	//
慶応3-2	～// 4年	忠惇	//
明治元年	～明治2-6	毛利権大納言敬親	山口36万石
// 2-6	～// 4-8	// 長門守元徳	山口藩知事
// 2-3	～// 2-7	公議所	
// 2-8	～// 3閏10	集議院	
// 4-8	～昭和8-9	内務省本庁舎	
// 4-8	～// 16年	大蔵省本庁舎	(以下省略)

〔注〕◎大老 ○老中 □若年寄 △側用人など

た。正容の父正之は二代将た。
 軍秀忠の三男で四代將軍家 宝永五年、大手門前の地
 綱の補佐役として重きをな に酒井雅楽頭家が復帰し、
 した。つづく正経は病弱で 以後明治維新までの一六〇
 弟の正容に藩主の座をゆず 年間、親愛、親本以下の一
 る。五代將軍綱吉の命をう 二代が住んだ。最初の二代
 け、保科から松平に改めた が前橋一五万石で、忠恭の
 のもこの正容時代であっ とき姫路一五万石に転封し 業勤務)
 酒井家は江戸中後期こそ 中央政界から遠ざかった
 が、幕末の風雲が急を上げ るようになる。幕政への参
 加をよぎなくされてくる。
 (筆者は、元電気化学工

華麗なる変遷

山岸 弘明

文久三年（一八六三）一四代將軍家茂の上洛にともなうて忠積に江戸留守居役が命じられ、老中首座、大老にすむ。この間、公武合体派による8/16クーデターがおこり、長州追放と七卿落ちで尊攘派を掃した。慶応三年（一八六七）家茂の逝去でようやく隠居をみとめられたが、今度は嫡子忠悳に老中が命ぜられた。忠悳は一五代將軍慶喜に

したがって大阪入り、鳥羽伏見の戦いでは幕府軍の一員として戦って敗れた。幕末期の国表は勤皇、佐幕派が藩論を二分したが、藩主が幕府の重職にあつたことから志士の弾圧も過酷をきわめ、恭順がきまると今度は佐幕派への糾弾と断罪がはじまった。

幕末の酒井邸は三井物産、日本長期信用銀行、三井生命、三和東京本部ビル、酒井雅楽頭邸の拡大にもなつて困込みとなつた邸地も多かった。日本長期信用銀行ビル、三井生命ビルの初代は鳥居成次。成次は関が原の合戦で伏見城に奮死した元忠の三男。徳川慶喜のとき忠長除封に連座して廃絶。次の井上正利は

から日比谷通りをはさんだ大手町ファーストスクエアの一部一、〇〇〇坪におよんだ。

酒井雅楽頭邸の拡大にとり、久世らの幕閣がこれに抵抗した。

安藤信友は享保の改革期の老中。松平乗邑、大岡忠相と幕府政治の改革をすすめた。松平乗賢も吉宗に抜擢され、格式尊重、序列重視の封建秩序を強化した。寛延二年（一七四九）か

井家氏は忠からはじまる通称左衛門尉家で、九代將軍家重と一〇代家治期の首席老中にすんだ。

元禄中期から若年寄、老中役屋敷になった。松平正久が若年寄として邸地をうけたのが最初で、以下米倉、稲垣、鳥居と若年寄がつづき、久世重之は七代將軍家継、八代吉宗初政の老中。前半は政治顧問の間部詮房と新井白石が幕政を牛耳り、久世らの幕閣がこれに

東京消防庁の慶長時代は京都所司代の板倉重宗邸で、寛永凶では、大工小屋（小細工小屋）とあり、十六年（一六三九）にその小細工跡地を天海僧正が拝領、正保三年（一六四六）酒井雅楽頭邸に囲込まれた。



歴史を刻む地に建つ三井生命ビル(中央)

天海僧正は徳川家康の政治顧問で、寺社行政に貢献したが、同じ僧侶の崇伝と対立し、しばしば激論した。家康の葬儀では崇伝によっていったん久能山に葬られた遺骸を翌年日光に移葬。寛永元年（一六二四）上野寛永寺を創建して開山とな

つた。元禄八年（一六九五）松平輝貞邸に困込み、のちの変遷をへて最後は酒井雅楽頭邸の一部に組込まれた。

（筆者は、元電気化学工業勤務）

〈注〉○老中

協和太平洋ビル、大手町センタービルの一部	久留里	土屋民部少輔忠直	久留里
慶長7年 ~ 慶長17-4	2万石	利直	〃
〃 17-4 ~ 寛永11-9	館林6万石	〃	〃
寛永11-9 ~ 承応3-1	〃	〃	〃
承応3-3 ~ 明暦3-3	〃	〃	〃
明暦3-3 ~	〃	〃	〃
酒井雅楽頭邸に困込み			
大手町センタービルの一部	山形57万石	最上出羽守義光	山形57万石
慶長ころ ~ 慶長19-1	〃	〃	〃
〃 19-2 ~ 元和3-3	〃	〃	〃
元和3-5 ~ 〃 8-8	〃	〃	〃
寛永ころ	高遠3万石	鳥居伊賀守忠春	高遠3万石
元和2-9 ~ 寛永3-5	10万石	本多中務大輔忠刻	姫路10万石
寛永3ころ ~ 〃 8-8	15万石	〃	〃
〃 8閏10 ~ 〃 15-11	〃	〃	〃
〃 16-4 ~ 寛文元-3	郡山19万石	〃	〃
寛文元-3 ~	〃	〃	〃
酒井雅楽頭邸に困込み			

酒井雅楽頭邸に囲込まれた邸地

して三井物産報室長ら関係し授賞式を開賞を祝い、今开展を期待し

論文の主旨は

授「九州ベー

籍化の方向」
とすする企業の
査と実証的分
地場産業の海
を把握し、輸
品の動向や外

サ局長の次

ノ氏は、テ
に読んでく
の命令で、
出席した。
応えねばと

終わり、今
を実施して
前に「テキ
で下さい、
談しないで
言ったら、
と言われて

銀のエコノ
アノバさん
の四日間積
て講義を盛
た。今回中
経済情勢に
計数が貰え
半前の知識

大手町二丁目二番地ものがたり ③

華麗なる変遷

山岸 弘明

大手町合同庁舎二と三井生命ビル一部に土井利勝邸があった。江戸、駿府の二

将軍家光時代は大老にすすんだ。土井家大手屋敷は

げもなくばらまき、やがて相良五万石の大名に榮進し

がUrotateになる。私は二人の同僚のアド

元禄時代の松平輝貞は当時とぶ鳥おとす勢いとされ

ある。千客万来、連日山の意次は収賄政治家の代表で

その後パーティーがある。ポラロイドカメラの

た田沼意次邸がおかれたこともあった。明和八年(一

天明六年(一七八六)家治が逝去して二一代将軍に

スの人達とコミュニケー

次の父意行は八代将軍吉宗の供で、紀伊から江戸入り

州一万石へ減封。大手町邸も没収された。

さくら総合研究所
常務取締役
西川 永幹

跡地を一代将軍家斉期の老中鳥居忠意が拝領。寛政四年(一七九二)には徳川一ツ橋向屋敷となったが、天保七年(一八三六)の割替えて敷地半分を一ツ橋家上屋敷に囲込み、残り半分が徳川田安家下屋敷、

天保十四年(一八四三)松平越前家中屋敷をへた安政四年(一八五七)酒井雅楽頭邸に囲込まれた。跡地は元和二年(一六一六)に本多忠刻が拝領した。徳川四天王忠勝の孫で、将軍秀忠の長女千姫が興入れ

山形五二万石最上義光、家親、義俊の三代が大手町セントービルの地にあったのは慶長七年(一六〇二)から元和八年(一六二二)まで。元和三年、例ともいえた。鷹狩から帰った家親が急死して義俊が遺領をついだとき、反対派は毒殺されたとして幕府に訴えた。しかし確認もなく一派処断。義俊も幼少で国政の鎮護がおぼつかないとして領地を公収された。典型的な大名廃絶

〔注〕○老中 □若年寄 △側用人など

慶長ころ	~寛永8-3	△鳥居土佐守成次	谷村3万石
寛永8-6	~// 9年	△// 忠房	//
承応ころ	~寛文9-6	△井上河内守正利	笠間5万石
寛文9-6	~貞享4-10	// 中務少輔正任	郡上5万石
貞享4-10	~元禄4-12	松平主殿頭忠房	島原6万石
元禄4-12	~// 7-2	九鬼長門守隆律	三田3万石
// 7-2	~// 9-4	□松平弾正忠正久	飯野2万石
// 9-4	~// 12-9	□米倉丹後守昌員	皆川1万石
// 12-9	~宝永6-9	□稻垣对馬守重富大	多喜2万石
正徳元年	~享保はじめ	□鳥居伊賀守忠英	壬生3万石
享保はじめ	~// 7-5	○久世隠岐守重之	関宿5万石
// 7-5	~// 17-8	○安藤对馬守信友	加納6万石
// 17-8	~// 20-6	○黒田豊前守直邦	沼田3万石
// 20-6	~延享3-10	○松平豊前守乗賢	岩村2万石
延享3-10	~// 4-6	○本多伯耆守正珍	田中4万石
// 4-6	~// 4-9	□秋元但馬守涼朝	川越6万石
// 4-9	~寛延2-2	松平右京大夫輝規	高崎7万石
寛延2-2	~// 2-11	// 輝高	//
// 2-11	~宝暦3-3	酒井左衛門尉忠寄	庄内14万石
宝暦3-3	~寛政元-5	榊原右京大夫政永	高田15万石
寛政元-5	~// 8-12	// 政敦	//
// 8-12	~安政4-9	徳川一ツ橋向屋敷	囲込み
安政4-9	~	酒井雅楽頭邸	囲込み

日本長期信用銀行、三井生命ビル

酒井雅楽頭邸に囲込まれた邸地

華麗なる変遷

山岸 弘明

千姫は政略結婚でいった熟門下生が幕府との決戦に、そなえる武備恭順を藩の方
 大阪落城のとき脱出し、忠 針とし、大村益次郎の軍制
 刻に再嫁した。本多家は桑 改革がすすんだ。
 名一〇万石から姫路一五万 慶応二年(一八六六)薩
 石に栄転。世子の忠刻にも 長連合がうまれ、鳥羽伏見
 化粧料一〇万石が贈られた の戦いに完勝した官軍が江
 が、一〇年で急逝し、千姫 戸開城をはたすのは四年
 は愛娘とともに徳川家に復 (一八六六)四月のことで
 した。本多家は弟政朝、政 あった。三井物産ビル地の
 勝とつなぎ、寛文元年(一 旧酒井雅楽頭邸を長州藩が
 六六一)酒井雅楽頭邸に囲 占拠し、廃藩置県までの四
 込みとなった。 年開藩邸としたが、藩主の
 幕末期の大手町一丁目自は 在住はなかった。

大手濠側に徳川一ツ橋家上 明治元年(一八六八)広
 屋敷、酒井姫路藩邸と歩兵 州藩邸が大蔵省と変わり、
 屯所がならび、二列めは酒 六年に内務省との合同庁舎
 井庄内藩上屋敷、小笠原小 実行するため長州藩邸の一 建設の半洋風二階建、大
 倉藩上屋敷と作事方の六邸 部に公儀所がおかれ、翌年 手門側の正門を入って左が
 をもって明治維新を迎え 集議院とした。各藩の代表 大蔵省、右が内務省。JR
 者が集まったが、大半が保 ガード側の裏門と庭園は幕
 守的で新政府の改革路線と 藩時代の面影を伝えた。
 あわず、廃藩置県後その機 大蔵省は明治二年(一八
 能は左院に引継がれた。 七二)の創設。大手町庁舎
 江戸が東京と変わり、町 最初の大蔵卿(大臣)が大
 に活気が戻るようになると 久保利通で、以下大隈重信、
 旧体制時代の城門が邪魔に 松方正義、井上馨、内務省

も大蔵省と同根で明治四年(一八七三)の戦災でも
 (一八七三)独立。大蔵省 大きな被害をうける。二月
 の片隅に開庁した。 二十五日の東京空襲は中央
 初代卿が大蔵卿から横滑 氣象台新庁舎、麹町税務署、
 りした大久保利通で、伊藤 東京都財務局、内閣印刷局
 博文、松方正義、山県有明 に二五〇kg爆弾と焼夷爆弾
 とつづいた。大正十二年(一 九二二)の関東大震災で焼
 失。跡地に数棟の平屋バラ 空襲で丸の内消防署、三和
 ック庁舎をたてて廊下で結 銀行などを焼失した。大手
 んだが、復興計画で中央官 町には航空局バラック庁
 庁が霞が関に集められるこ 舎、中央電話局などがさび
 とになり、昭和八年(一九 三三)に移転した。
 その後しばらくの間、内 大手町は一面が焼野原で、
 務省跡地も大蔵省庁舎の一 連合軍GHQの接収に耐え
 部として使用されたが、昭 る建造物はなかった。旧官
 和十五年(一九四〇)六月、 庁舎はバラック庁舎街とな
 合同庁舎二の地にあった航 空局の二階建木造庁舎が落
 雷焼失、皇居防衛を優先し 防署がおかれたが、進駐軍
 た消防体制をあざわらうよ りの駐屯場とされた空地がめ
 うに火の粉は神田橋税務 だった。人々は食うや食わ
 署、内閣企画院、厚生省、 ずの耐乏生活をおくった。
 中央氣象台を焼いて大蔵省 (筆者は、元電気化学工
 を灰埃と化した。 業勤務)
 大手町一丁目自は昭和二十

慶応四年(一八六八)東 征軍の進撃で江戸城が無血
 開城されると、その玄関先 位置した大手町も大きな
 変化を余儀なくされてく る。維新当時、周辺大名家
 はすべて国元にひきあげて 無人。官軍勢はこれらを次
 つぎに没収していった。酒 井雅楽頭邸は長州藩屯所、
 酒井左衛門尉邸は薩摩藩屯 所、旧幕歩兵屯所には官軍
 親兵隊の三番四番屯所がお かれた。
 明治維新の歴史は長州藩 主の毛利敬親ぬきに語れな
 い。第一次征長では三家老 の首を差し出して家格をま
 ったうしたが、こうした政 治姿勢に藩内尊攘派の不滿
 が高まってくる。やがて高 杉晋作を中心とした松下村



大手町の象徴旧江戸城大手門

慶長ころ	△板倉周防守重宗	関宿5万石
寛永ころ	小細工小屋	
// 16-6	南光坊天海大僧正	政治顧問
// 20-6	観音院	
明暦3-2	本多土佐守忠隆	旗本5千石
延宝8-9	板倉市正重大	旗本5千石
貞享元-8	□稲垣安芸守重定	山上1万石
元禄元年	△柳沢出羽守吉保	1万石
// 2-4	△畠山民部大輔基玄	高家5千石
// 4-2	黒田豊前守直邦	のち沼田藩
// 6ころ	松平若狭守直明	明石6万石
// 7ころ	金田能登守正明	旗本3千石
// 8-12	松平右京大夫邸	囲込み
正徳元-12	酒井雅楽頭邸	囲込み
元文5-11	松平右京邸	囲込み(以下次項)

〔注〕 □若年寄 △側用人など

東京消防庁、大手町合同庁舎、
 酒井雅楽頭邸に囲込まれた邸地

華麗なる変遷

山岸 弘明

昭和二十五年にはじまった朝鮮動乱はわが国に特需景気をもたらし、戦後復興をうながした。対日講和が実現し、独立国家として国際社会に復帰したのもこのころのことであった。

経済復興にともなつて首都東京の都市構想が問題提起されるようになる。昭和二十七年(一九五二)には政府の官庁営繕審議会が大手町官庁の集中統合を骨子とした改革案の答申を行った。

「一段落したらデータセーブ。大仕事を始める前にデータセーブ」。「バックアップファイルを一つも作らない人は大胆なのかノーテンキだ」。

ANN!

作業中のデータが消えてしまつて大騒ぎした人も多いはずである。サーバーに入れてあるデータだつて万全とはいえない。作業中頻繁にデータセーブをし、重要なものはフロッピーに落として保管するなど、自分で責任を持てる対策を講じておきたい。

構想は大手町一丁目全域を中心とする旧大蔵省、内務省、文部省、農林省、印務省、中央气象台、憲兵隊、刷局、中央氣象台、憲兵隊跡などの国有地に散在する諸官庁を高層総合庁舎に統合するというもので、一〇年後の昭和三十七年(一九六二)に完成。主要部分をこつして大手町はまたまた六六)に完成。主要部分をこつして大手町はまたまた

「コネクター類がうまくささらない時は思いっきり力を入れる前向きが正しいか確認した方がいい」。「ホコリにまみれたフロッピーディスクをドライブにつっこんではいけない」。

「ワープロに始まつてワープロで終わる人と、ワープロに始まつてワープロだけで終わる人がいる」。

「パソコンでトラブルがあった時、人に尋ねる前に自分で十分ぐらい考えた方がよい」。「メンツにこだわると高くつく」。

大変貌のときを迎えた。

三井物産ビル地の戦後は航空局と気象庁寮、駐車場という組合せであった。航空局は戦前の通信省外局航空局の後身で、航空保安庁をへて運輸省航空局となった。昭和三十七年(一九六二)合同庁舎一の新庁舎に移転。跡地は住宅展示場、カーウォッシュセンター、駐車場などとされた。

業容の拡大で内幸町本社屋が手狭となった総合商社三井物産がこの地に進出したのは昭和五十一年(一九七六)のことであった。延べ建築面積一六万一、〇〇〇平方尺。皇居を眼下にみおろす二四階のマンモス高層ビルが誕生した。

本館は高さ幅がともに一〇〇呎の正方形で、内堀側の三角形の空地に緑の遊歩道をつくった。通勤する社員七、〇〇〇人に来客五、〇〇〇人ともいわれるマンモスオフィスビル。低層の別館とドーム式の渡り廊下が結んだ。

昭和五十八年(一九八三)五月、前庭の池にカルガモ親子四羽が巣作りをはじめた。引越しのため内濠通りを横断するカルガモ一家が大きく報道された。

三井生命ビルと日本長期信用銀行ビルの戦後期には関東財務局があった。昭和二十四年、大蔵省の最先機関として設立。旧軍資産など国有財産の処理にあつた。



平将門をまつる首塚

東レ経営研究所取締役
シンクタンク部門担当・
情報化事業室長

古宮 達彦

たが、四十六年、合同庁舎三に移転。

一方、三井二号館に本社をおいた三井生命は、戦後の急激な業績進展で、自社ビル建設の必要性が高まっていた。三井生命が大手町都有地の払下げを受けたのは昭和二十九年のこと、当初敷地は三、六〇〇平方メートルであったが、その後隣接地の一、三〇〇平方メートルを加えて三十四年着工、二年余りの工期をへた三十六年四月に九階建て鉄筋コンクリート、延べ建築面積四万八、〇〇〇平方メートルを竣工させた。

昭和三十六年、九階の日本長期信用銀行本店が完成し、四十八年には創業九六周年、創立四〇周年を記念した三和銀行が高層二四階のサンワ東京ビルを建築させた。黒ミカゲ石で囲み、建設当時、超高層の銀行ビルと話題になった。

協和太平洋ビル、大手町センタービルの一部は明治四十年（一九〇七）の市区改正工事の結果生まれた飛び地で、明治、大正時代は憲兵隊幹部の官舎、後期は宮内省料地とされたが、昭和十年（一九三五）丸の内消防署に貸下げられた。戦争がはげしくなると二十年四月、東京空襲で被

爆。四十二年（一九六七）鉄筋コンクリート三階のモダン庁舎を竣工し、五十一年（一九七四）大手町官庁の統合計画の一貫として東京消防庁本庁舎に併設された新庁舎に再度移転した。

跡地は大洋漁業に払下げられ、五十三年（一九七六）二四階建ての近代ビルディングが竣工。協和銀行（現あさひ銀行）と大洋漁業が入居した。

大手町センタービルの戦後は国際自動車が昭和二十一年（一九四六）丸の内営業所をひらいてGHQ専用ハイヤーとPDバス駐車場としたことにはじまる。PDは米進駐軍の物資調達指示書の略称で、軍の要請にしたがって将兵やその家族輸送の任にあたった。

隣接した空地は東京都の産業会館と貿易会館になった。産業会館は昭和二十九年（一九五四）竣工の八階

ビルで、常設展示場、企画イベント会場を併設した。東京機械貿易会館は三十一年（一九五七）の完成。昭和三十年代からはじまる高度成長社会の推進役をたした。

昭和五十八年（一九六三）一月、貿易会館と産業会館の地に大手町センタービルが竣工。地下四階地上二三階、延べ建築面積が二八万七、〇〇〇平方メートルの高層マンションであった。大手町はいま、日本ビジネスの中心地として大企業の高層ビルが林立する近代都市となっている。

江戸東京四〇〇年の歴史をきざんで不死鳥のようによみがえった大手町一丁目二番地。その足跡は華麗なる変遷とよぶにふさわしい栄光の道のりでもあった。（筆者は、元電気化学工業勤務）

〔注〕 ◎大老 ○老中

慶長6年	~正保元-7	◎土井大炊頭利勝	古河16万石
正保元-9	~明暦3-3	// 遠江守利隆	// 13万石
明暦3-3	~貞享3-7	松平和泉守乗久	唐津7万石
貞享3-9	~元禄3-9	// 乗春	//
元禄3-11	~// 6-10	// 左近将監乗邑鳥羽	7万石
// 6-10	~正徳5-4	松平右京大夫輝貞高崎	7万石
正徳5年	~享保20-5	○酒井修理大夫忠音小浜	11万石
享保20-7	~元文5-8	// 備後守忠存	//
元文5-10	~// 5-11	// 一学忠用	//
// 5-11	~延享4-9	○松平右京大夫輝貞高崎	7万石
延享4-9	~明和4-8	○秋元但馬守涼朝	川越6万石
明和4-8	~天明6	○田沼主殿頭意次	相良5万石
天明6	~寛政4-9	○鳥居丹波守忠意	壬生3万石
寛政4-9	~天保7-11	徳川一ツ橋家向屋敷	
天保7-11	~// 14-8	徳川田安家下屋敷	
// 14-3	~安政4-9	松平福井藩中屋敷	
安政4-9	~	酒井雅楽頭邸囲込み	

酒井雅楽頭邸に囲込まれた邸地
大手町合同庁舎2、三井生命ビルの一部

大手町1丁目2番地ものがたり
(三井物産、三井生命ビル)

華麗なる変遷

三井グループ「三友新聞」連載
平成8年～9年

山岸弘明

DVDBY 塚原 茂